

「社会探検工房」報告にあたり

本校の特色ある学校行事の一つである「社会探検工房」は、各分野での第一線の活動内容の取材や職場等の視察をすることで、将来の進路設計や、職業選択の一助とすることを目的にしている。本年度は、校長先生から「職業選択を考える一步前の段階であるキャリアそのものを考えさせる内容を含めるべきである」との御助言をいただき、「最先端技術」と「情報発信」をテーマにしつつ、キャリア教育についての講義も盛り込んだ。

今年度は1年次生3名（男子1名、女子2名）、2年次生4名（女子4名）の計7名の生徒が参加し、テレビ番組や新聞など、普段当たり前のように目の前にあるものが、多くの人たちの手によって制作されている現場を見学することにより、「日常生活を職業という面から意識する」とともに、「今の高校生活を大切にすることが、将来のキャリア形成の第一歩となる」ということを学んできた。本日の報告会で、この「学び」が伝わることを願ってやまない。

今年度の日程

第1日 7月27日（木）	午前【全体研修】 ◆日本テレビ（見学・仕事内容説明） 午後【全体研修】 ◆日本科学未来館（見学） 夜【全体研修】 ◆プレゼン研修（於：国立オリンピック記念青少年センター研修室）
第2日 7月28日（金）	午前【全体研修】 ◆講義「高校生のキャリア形成に向けて」 東洋大学准教授 小島貴子先生（於：東洋大学白山キャンパス） 午後【全体研修】 ◆読売新聞（見学・模擬取材体験）

研修概要

日本テレビ

◎ニューススタジオ見学

○プロンプター

報道の真実性を視聴者に印象付けるために、キャスターがカメラ目線でニュース原稿を読むための装置。キャスターを撮影するカメラの画面に映されたニュース原稿を読む仕組み。キャスターの読む速度に合わせて原稿をスクロールさせていく。

○サブコントロールルーム（サブコン）

複数あるテレビカメラの切り替えや、テロップの挿入、画面編集などを行うニューススタジオに隣接するルーム。

→ニュース番組が放映されるまで多くのスタッフが関わっていることを再認識した。

取材スタッフ、編成スタッフ、キャスター、サブコンスタッフ、カメラマン…、テレビ局に関わる「職業」の幅広さを学ぶ良い機会となった。



◎番組収録現場見学（「ヒルナンデス」収録現場見学）

○前説

スタジオ観覧者の雰囲気や和ませ、番組を盛り上げるために、おもしろトークで観覧者を笑わせたり、拍手の練習などを先導する。本番までに、スタジオの雰囲気が和やかになり、番組のオープニングが華やかになる。

○照明

番組に出演するタレントたちは、番組に合わせメイクや衣装などを真剣に選び収録に臨む。そのタレントたちのテレビ映りを最善のものとするため、「影をつくらない」ように照明を調整する。LEDの発達により、発熱量や電気代も抑えられ、よりよい画面作りが可能となっている。

○出演者たちの才能

番組見学に来た生徒たちに対し、CM中にヒルナンデスの出演タレントから声かけのサービスがある。私たち社会探検工房のメンバーにも「どこから来たの～」と声をかけ、校名の「浦和」にちなんだ即興のギャグで笑いを取るお笑い芸人。さすがだなと感じさせる瞬間であった。また、決められた時間内ぴったりに原稿を読むアナウンサーの力量。番組出演者のプロの技を目の当たりにした。

◎テレビ業界の課題と求める社員像

○時間と金

テレビ放映の時間は24時間という限られた時間である。その中で、他局にはない番組をどのように組み込んで番組編成をするのか、また、いかにコストをかけずに番組を制作するか。「時間と金」のマネジメントが最大の課題であるようだ。

さらに、番組制作だけでなく、海外への番組の売り込み、ネット配信、協賛事業など様々な可能性を模索しなければ生き残れない時代。ビジネスチャンスにつなげるために、時代を読む力が求められる。そして何よりも「テレビが好き」という気持ちが求められるということだ。



日本科学未来館

◎ジュニアインタープリターに向けて

本校では、平成16年度から「ジュニアインタープリター（科学未来探検隊）」を実施している。本校生徒が日本科学未来館で、小・中学生に最先端の科学について解説をする。この体験を通して、小・中学生に科学の面白さや不思議さを感じてもらうとともに、地域の小・中・高校生の交流を深めることを目的としている。

今回の社会探検工房でも、ジュニアインタープリターの事前調査を兼ねて、最先端科学の展示を見学した。



プレゼン研修

◎「社会探検工房」もう一つの目的

今回取材した内容は、後日、報告会の場で、パワーポイントにまとめて発表をする。取材した内容を自らの言葉でまとめて、わかりやすく他の人々に発表をすることで、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養うこともこの行事の目的である。

この報告会に向けて、1日目の宿舎である国立オリンピック記念青少年センター研修室で「プレゼン研修」を行った。3つの班に分かれ、1日目の見学から1つテーマを絞り、1時間でシートに「見学で学んだこと」をまとめて、発表した。



東洋大学小島貴子准教授(講義「高校生のキャリア形成に向けて」)

◎「そもそも」を知る

「キャリア」を考える前にまず、そもそも「キャリア」の語源は何か。物事を考えるときに、そもそもに立ち返ることで「知った気でいたこと」が「わかった」につながっていく。「キャリア」についても同様で、そもそもの語源はラテン語の「道」から派生し、「轍」を意味する語となった。「轍」とは車が通った車輪の跡のことで、そこから「経験の積み重ねにより築き上げてきた人生そのもの」の意味としての「キャリア」につながった。

◎キャリアは過去にある

「轍」は車が通ってきた後ろにしかできない。現在の自分の姿も同様で、今の自分は過去の積み重ねでできている。自分が将来望むキャリアを手に入れたいならば、将来（未来）から見た過去つまり「今の自分」が一日一日良い習慣を積み重ねていくしかない。

◎小島准教授からの「高校生へのエール」

- * やりたいことを見つけよう
 - * やりたいことをやるためにやるべきことは何かを考えよう
 - * 目の前に与えられたものをしっかり理解しできることを増やそう
 - * 良い習慣を身につけよう
 - * 未来の自分を作るのは今の自分
 - * 今の時間の中身で未来の時間の中身が違う
- 高校生の皆さん「今を大切に生きてください！」



読売新聞

◎模擬取材体験

取材の依頼を受け、誰に何を取材し、記事にしていく。タブレット端末を用いて架空の町に取材に出かけ、どのような視点で読者に何を伝えるかを考えて記事作りを進める模擬取材体験を行った。



学んだこと（参加生徒の感想より）

日本テレビ

- ◎映像の切り替えや照明、そしてカメラのことなど、普段は見えない所で仕事をされている職種がたくさんあるということを知りました。
- ◎テレビ局の商売としての一面も聞いた。オリンピックやF I F Aワールドカップという国際的なものは、放送する権利はとても高いそうだ。そこで、日本テレビは東南アジアのケーブルテレビに番組を売ったり、放送以外のことで貢献している。今はインターネットが主流である。だが、日本テレビはむしろチャンスと捉え、テレビは楽に楽しめるものとして考えていた。とても前向きな考えであった。その精神がおもしろい番組を生み出していると感じた。
- ◎「ディレクター」・「プロデューサー」という言葉は聞いたことがあってもディレクターは映像のこと、プロデューサーは人とお金の管理をしていることや、サブコントロール室と呼ばれる場所では、画面の切り替えやテロップの切り替えを行うスイッチャーや音声の人がいたり、また別のテロップセンターという場所でテロップが作成されていたりと、実際に目で見てみないと感じるこのできない体験をすることができました。
- ◎「テレビ制作や舞台裏の仕事」というぼんやりとした夢があった私は、仕事の内容を深く知ることで、将来進みたい方向性が決まりました。

日本科学未来館

- ◎所々難解なところもありながらも最先端の技術を見学することができました。医療や宇宙など、これからの世の中でどのように発展し、貢献していくかとても興味深くなりました。
- ◎音に関する技術のブースに行った。聞こえる範囲を決められたり、聞こえるターゲットを決めることのできるスピーカーがあった。この技術はいろいろなことに使える。例えば電車でイヤホンをせずにテレビを見ることができたり、盲目の人が周りを気にせずに新聞を音声にして聞くことができる。

東洋大学小島貴子准教授(講義「高校生のキャリア形成に向けて」)

- ◎「キャリアは先はない、後にあるもの」や「今日は未来の過去」などの小島先生の言葉を聞いて、これからは今まで以上に一日一日を大切に生きようと思いました。他にも「将来それが役に立つ立たないではなく、役に立つことを信じて努力する」などとても感動的な言葉も聞きました。
- ◎今をぼんやり生活してはいけないと感じた。今やるべきことをやることで未来につながると思い頑張りたい。
- ◎キャリアは過去からつながった今そのもので自分の時間の中身によって来年の自分が違うということを常に頭に入れ、沢山夢を見て興味を広げる10代の時間を大切に使い、20代・30代で自分より上の人間に使われて生きないように自分のために勉強したいです。「学校はわかろうとすればわかることを教えてくれる場所」とおっしゃっていたので、一分一秒「過去」になっていく「今」を学校という場で大切にしたいです。
- ◎私は、勉強をすることが苦手で、勉強をする時の集中力が続かず、すぐに自分の楽なこと、楽しいことに逃げてしまっていました。が、「習慣とはいつもやっていること。良い習慣をすればチャンスが回ってくる」というのを聞いて、習慣を変えなければいけないと強く思いました。勉強が好きになるのは難しいことだけど、興味を持てる努力をしようと思いました。

◎先生は私たちに「そもそも」を考えて欲しいとおっしゃいました。私は言われたことだけを理解していただけだったので、「どうしてこうなってるの？」と根本から聞かれても答えることが出来ませんでした。ですが、今回の講義を受けて「そもそも」を考えることで根本から聞かれても相手に分かりやすく伝えられるようになれるかな、と思いました。

◎学習量とは未来への大きな貯金であるという言葉がとても印象的でした。

読売新聞

◎記者の方々が必死に情報を得ていて、その姿にとっても感動しました。×切時間にも絶対に間に合うよう読売新聞社全体でがんばっているのを知ってカッコいいとも思いました。

◎日本テレビの報道局とは違い、広々とした仕事場であった。部どうしの仕切りがなく、何部がスクープをとったのか一目で分かる仕組みになっていた。朝刊と夕刊で役割分担されているようだ。夕方3時に翌日の朝刊の会議が始まる。テレビ局と同様多くの時計がある。新聞社では多くの支社と取材拠点がある。会議では、各地方のでの記事も話し合うため、テレビ電話用のモニターが置いてあった。マイクも使い、激しく話し合う様子から、立合い・土俵入りと呼ばれている。

◎読売新聞では、テレビ局と同様に多くの人が携わっていることが、自分の目で見たことでより実感しました。新聞社は朝刊を朝三時から作り始め、紙面データができるのは午前一時を過ぎるそうです。十時間以上、良い記事にするために取材を続け、私たちにわかりやすく正確な情報を届けてくれるというのは本当にすごいことだと感じました。

全体をおして

◎私は今回この社会探検工房に参加して、将来自分は何をやりたいのかどんな仕事をしたいのかを考える良いきっかけになりました。